

二人三脚の仕事

ミニチュアバット製作 向川 隆

No.80

「初めはダイニングセットの足の部分や背もたれを作っていました。」

現在75歳の向井さん、小矢部市文化スポーツセンターの近くにある自宅の横に木工作業場があり、そこで夫婦二人で仕事をされている。木工加工には、木を丸く加工する「丸もん」と、角材に加工する2種類がある。向井さんは、「丸もん」専門。

「昔は丸い木材をつかったデザインが主力だった。それが丸もんから角材に変わってきて、仕事は減ってきた。」

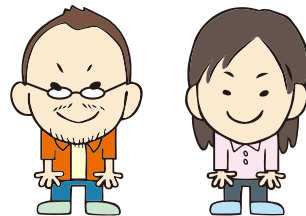


向井さんは現在、ミニチュアバットを作っている。



「丸もんは、どうしても人間の手をかけないと、綺麗な仕上がりにならない。」

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人のつながり」で紹介していきます。



仕事場には、長年使い続けている大きな木工加工の機械が何台も配置されている。機械の間には大量の木材。今まで製作した試作品や仕掛品などが足の踏み場もないくらい置かれている。



木工の仕事が続けて四十年。手に職があるという事は、生涯現役で仕事ができるということ。「ちょっと、ごちゃごちゃしてるんだけどね。」と、夫婦二人の仕事場を見せていただいた。大きなバットも小さなバットも同じ機械を使い、両端を挟み、回転しながら削っていく。月に三千個ぐらいを製作している。

奥さんの手つきは、全く無駄がない。サンドペーパーを使い、回転して



ご主人が削り出し、奥さんが仕上げの磨きを行う二人三脚の仕事だ。

その中を向井さんは、75歳とは思えないほど、軽やかに動き回る。ミニチュアバットの作る作業を見せられても、削り始めるタイミングやスピード。全く感覚だ。流れるような手の動きで機械を扱い、あっという間に完成した。



木材加工 向川 隆

「この辺は、昔は山がここまで広がっていたんだけどね。」 木材加工40年。自宅の周りほとんど変化しても、二人の息の合った木工作業はいつまでも変わらない。



いるミニチュアバットを器用に磨いていく。ゲートボールがブームだった時は、記念品用ステイックも製作。今はグランドゴルフ用クラブの試作品を作るなど、まだまだ腕も心も衰えない。

言葉には表れない 共に歩んできた夫婦の絆を感じることができた。



店長の一言

小矢部市シンボルキャラクター「メルギョーくん」グッズの販売 地元のお店紹介・特産品のプレゼント企画を随時開催

Oyabe Local SHOP

eyabetter

流行のツイッター利用 プレゼントをもらおう!

<http://www.startaro.com/shop/>

小矢部の人と人、人と企業、企業と企業の架け橋 北陸の十字路からの情報発信システム

Oyabe Local SNS

登録無料の小矢部限定 最新情報をGET!!

<http://sns.startaro.com/>

口コミ情報、おもしろ情報を集めてメルマガ 「ありがとうプロジェクト」スタートしています

Oyabe Local Mail

前日か当日の 大分公開中!!

<http://oyabelocalmail.blog27.fc2.com/>